

87 のりつき 法月惣次郎と名大電波望遠鏡

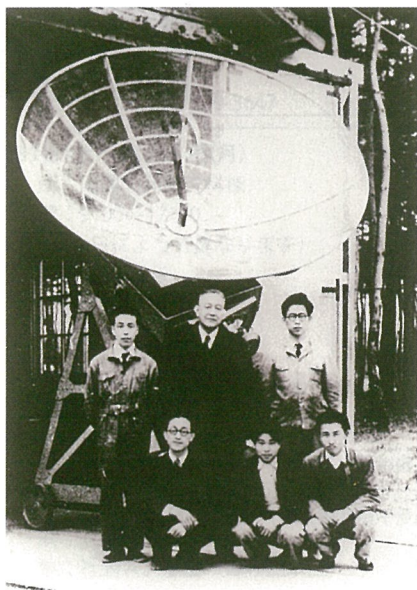
－「なんてん」の系譜－

今年、ガリレオが初めて望遠鏡で天文観測を行ってから400年目を記念した世界天文年です。名大の望遠鏡といえば、チリに設置されている世界に誇る電波望遠鏡「なんてん」が有名です。5月22日にも、理学研究科附属南半球宇宙観測研究センターが新型の超新星爆発痕を観測したことで、その名は広く報道されました。

ところで、実は「なんてん」に先立ち、名大には優れた電波望遠鏡の系譜が存在します。その起源は1951(昭和26)年にさかのぼります。当時の空電研究所(現在の太陽地球環境研究所)では、太陽電波受信装置の開発に取り組んでいました。まだモノのない時期でしたので、製作に携わった田中春夫教授は、軍用品の残がいなどを加工して製作に取り組んだと後に回想しています。特にパラボラアンテナに関しては苦難の連続で、当時はまだ企業秘密で情報が少なく設計も困難であった上に、田中教授が下請けの会社に製作を相談した際、提示した金額がとても少なかったため一度は断られています。

しかしあえてその製作を買って出る人物がいました。鉄工職人だった法月惣次郎氏(1912-1995)です。法月氏は直径2.5mの金網張りのパラボラアンテナを納入し、これにより日本初のパラボラ電波望遠鏡が名大に完成しました。法月氏はその後も空電研究所に約20年間で120台以上の電波望遠鏡を納入し、空電研究所もそれを基にした観測で世界にその名が知れ渡りました。法月氏の望遠鏡の性能の高さは、海外で「日本には電波望遠鏡製造の秘密基地がある」と噂されるほどだったそうです。

法月氏が名大に納入した最後の作品は、1982年の「旧4メートル電波望遠鏡」です。「なんてん」は、この望遠鏡を改良して新たに製作されたもので、1990(平成2)年に完成し、1996年にチリに移設されました。それゆえ、一連の名大の天文学研究は、法月惣次郎氏との二人三脚の歴史であったとも言えるでしょう。法月氏の地元にある「ディスクバリパーク焼津」では、今も氏に関連する機材や資料が公開されています。



1	2	3
		4

- 1951年3月、第一号の太陽雑音受信装置と豊川の空電研究所を訪れた勝沼精蔵名大第三代総長(後列真中)。このパラボラが法月氏のデビュー作であり、また名大天文学の夜明けともなった。
- 法月惣次郎氏。(焼津天文友の会(編)『宇宙へのバイオニア』法月技研より)
- ディスクバリパーク焼津にて展示されている、名古屋大学で実際に使われていた法月製パラボラアンテナ。1968年製。
- 今も東山キャンパスにある理学部旧4メートル電波望遠鏡

名古屋大学基金

名古屋大学基金へのご寄附をお願い申し上げます。この基金は、平成18年3月に創設され、学生育英事業、教育・研究環境整備事業、国際交流事業などの充実のために活用されます。ご寄附のお申し込み、お問い合わせは秘書課(基金事務局)あて(電話 ☎789-4993, 5759、Eメール kikin@post.jimu.nagoya-u.ac.jp) にお願いたします。